

# 新型コロナウイルスによる感染症疑いの方を家庭で看護するときには ～ 感染を広げないために気をつけること ～

新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染により感染します。空気感染は起きていないと考えられますが、閉鎖した空間・近距離での多人数の会話等には注意が必要です。ご自宅で療養する場合、看護する人はうつらないように気をつけましょう。

注意すべき  
感染経路は  
飛沫感染  
と  
接触感染

予防には咳エチケットや手洗い・消毒が効果的です。

## 飛沫感染

- 感染した人の咳やくしゃみのしぶき(飛沫)に含まれるウイルスを吸い込むことによる感染です。
- 咳やくしゃみが直接人にかからないよう、マスクやティッシュ等で口と鼻を防ぐ等の「咳エチケット」が効果的です。

## 接触感染

- ウイルスの付着した手で、目・口・鼻を触ることによる感染です。
- 予防するには、手洗い・消毒が効果的です。

看護する時に  
心がける  
8つのポイント

### ① 看護する人を決めましょう

- \*可能であれば、看護する人を一人決めましょう。
- \*他の家族は患者さんと不必要に接触しないようにしましょう。

### ② 看護する時は、使い捨てのマスクや手袋を着用しましょう

- \*患者さんを看護する時は、不織布製の使い捨てマスクを着用しましょう。
- また、嘔吐物など汚染物を処理する時は、手袋も着用しましょう。

### ③ 看護する方や同居者も毎日朝夕の検温をしましょう。

### ④ 患者さんが休養する環境を整えましょう

- \*家族やまわりの方にうつさないよう、個室で休養しましょう。
- \*患者さんには使い捨てマスクを着用してもらい、マスクは一日一枚程度交換しましょう。
- \*患者さんの近くにゴミ箱を置き、鼻水や痰のついたティッシュなどをすぐにゴミ箱に捨てられるようにしましょう。
- \*患者さんが使うタオルやコップなどは、他の家族と分けましょう。



## 療養中の体調管理について

- 十分に睡眠をとり、安静に過ごすことが大切です。
- 発熱時の脱水症状を防ぐため、こまめに水分を補給しましょう。
- 次の症状がある場合は、帰国者・接触者センター(右のQRコード)にご相談ください。
  - ・風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日間以上続いている。(解熱剤を飲み続けなければならないときをふくむ)
  - ・強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある。高齢者や基礎疾患等がある方は上の状態が2日間続く場合



## ⑤ 看護した後は、マスクや手袋をはずし、手を洗いましょう



- \*看護で使用したマスクや手袋は、他の人が触れないようすぐにゴミ箱に捨てましょう。
  - \*手洗いは流水と石鹸で15秒以上行い、水分を十分にふき取りましょう。
- 詳しい手洗いの方法は、東京都ホームページ（手洗い動画：右QRコード参照）をご覧ください。



## ⑥ ゴミの捨て方に気を付けましょう

- \*患者さんが使用したティッシュやマスク、看護の際に使用したマスクや手袋等のゴミを捨てる時は、他の人が触れないよう、ビニール袋などに入れ、しっかり口を縛って捨てましょう。
- \*ゴミをまとめた後は、手を洗いましょう。



## ⑦ 患者さんが使った食器や衣類は、通常通りに洗えます

- \*患者さんが使った食器や衣類等は、通常の洗剤を使用して、他の家族のものと一緒に洗うことができます。
- \*患者さんが使った衣類等を触った後は、手を洗いましょう。

## ⑧ 患者さんや家族がよく触れる場所を清掃・消毒しましょう

- \*患者さんや家族がよく触れる場所（机、ドアノブ、スイッチ、階段の手すり、テーブル、椅子、トイレの流水レバー、便座等）を中心に、清掃・消毒しましょう。
  - \*水と洗剤によるふき取り清掃か、消毒剤によるふき取り消毒を行きましょう。
    - 消毒剤は、次亜塩素酸ナトリウム（製品に表示されているとおり希釈したもの）や消毒用エタノール等が有効です。
    - 消毒剤を使う場合、消毒剤を浸したペーパータオル等によるふき取り消毒を行きましょう。消毒剤の噴霧は、不完全な消毒やウイルスの舞い上がりの可能性があるため、避けましょう。
- また、換気をするほか、使用上の注意をよく読んで使いましょう。
- \*清掃・消毒作業をした後は、手を洗いましょう。



## 新型コロナウイルスによる感染症の最新情報について

- \*新型コロナウイルスに関する情報は、国内外の患者報告を受けて、日々情報が更新されています。
- \*東京都感染症情報センターのホームページ（右のQRコード）では、最新の情報をご覧ください。

